

定置網による駆除

《定置網による駆除》

定置網による駆除は、三角網で捕獲できなくなった移動期の稚魚(全長25mm以上)や秋以降に幼魚や成魚を捕獲することを目的としています。

三角網による捕獲ができなくなる時期と、水温が低下する11月から12月にかけて定置網を設置しています。夏にはほとんど漁獲できないため設置しておりません。

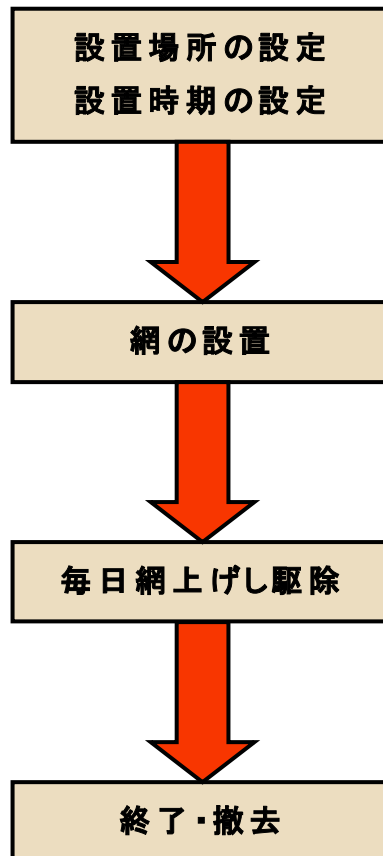


▲ 定置網の引き上げ作業



▲ 網の引き上げ

☆ 定置網による駆除の流れ



IV-1 定置網による稚魚の駆除

1. 定置網の設置

定置網の設置初期には産卵場付近や稚魚が多く見られる場所に設置します。



2. 網上げ

稚魚の移動期には、毎日網上げをします。網が汚れると、稚魚が入りにくくなります。



3. 漁獲

定置網設置初期では、捕獲される魚類の9割以上がオオクチバスの稚魚です。その後、他魚種の混獲が増えたら、駆除を終了します。

捕獲した稚魚は陸上処分します。



IV-2 定置網による幼魚・成魚の駆除

1. 定置網の設置

伊豆沼・内沼の場合、漁業協同組合の組合員が、定置網によるオオクチバスの駆除を行っています。水温の低下する11月から12月に約100ヶ統の定置網を沼全域に設置しています。



2. 網上げ

2～3日おきに網上げします。捕獲したオオクチバスはすべて回収します。



3. 回収

法令によりオオクチバスの生きたままの移動は禁止されています。

伊豆沼・内沼ではゴミ処理場で焼却処分しています。





▲ 定置網による駆除

オオクチバスの漁獲が減少すると他魚種の割合が多くなる

池干しによる駆除

《池干しによる駆除》

多くのため池でオオクチバスが確認されています。オオクチバスが繁殖しているため池では、下流に位置する河川や湖沼、水路へ稚魚が流下し、魚類など多くの生物に影響を及ぼす可能性があります。このため、池干しによる駆除は、その周辺の河川や湖沼、水路でのオオクチバス被害を減少させる効果があります。

池干しを行うには管理者の許可や協力を得て行いましょう。また、長年水抜きをしていないため池では、泥が堆積し水抜き作業が困難な場合や泥が深くて身動きがとれない場合もあるため、あらかじめ安全性を確かめて作業を行いましょ



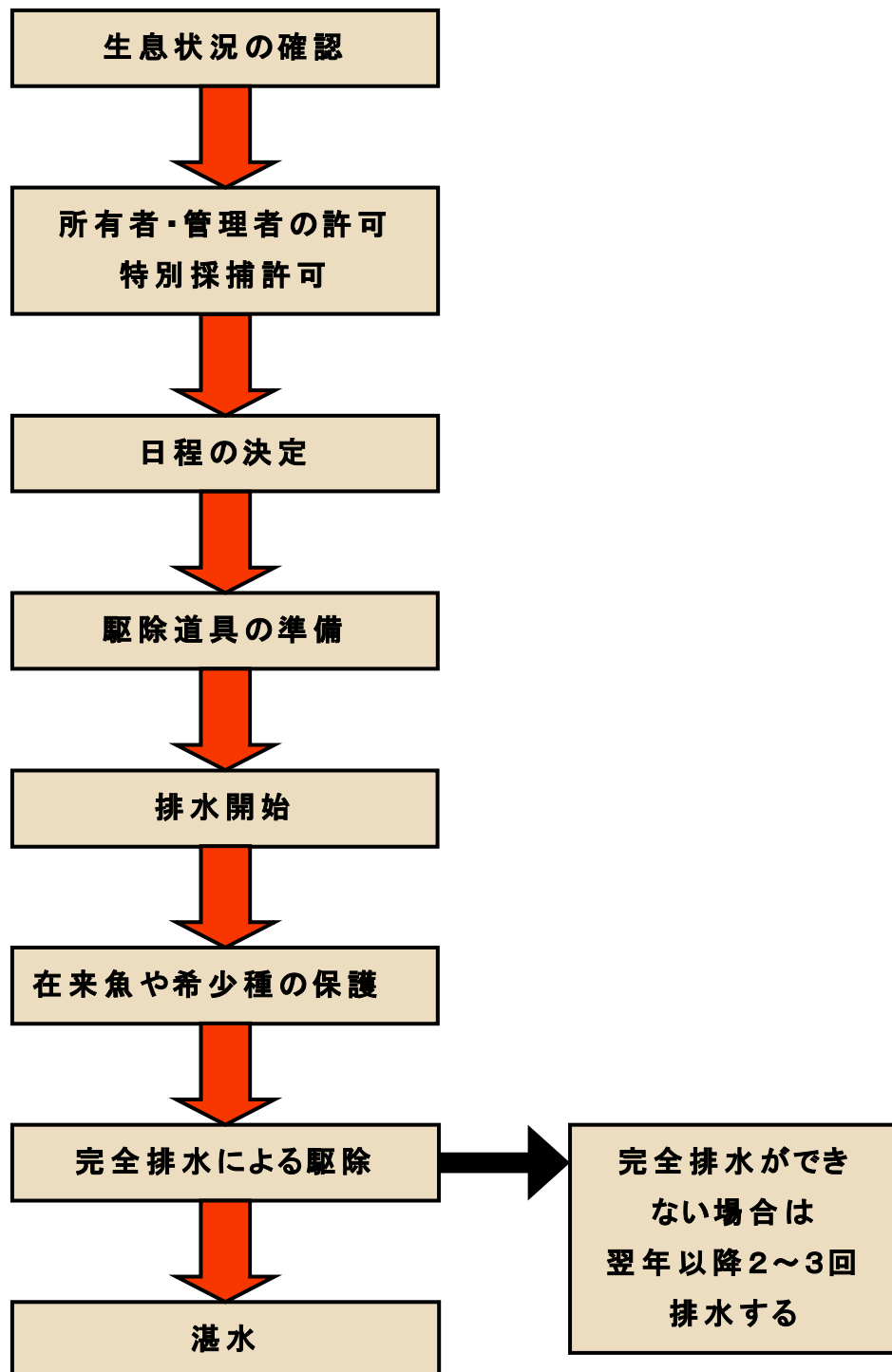
▲ 池干し作業

子供たちも参加し、排水口から魚が流下しないよう網で採集している。



▲ 水位が減少したあとに現れたドブガイ

☆ 池干しによる駆除の流れ



V-1 池干しによる駆除方法

1. オオクチバスの生息状況確認

確認は、聞き取りや目視、漁獲調査などで行います(13ページ参照)。

2. 管理者に許可と協力を要請

ため池でオオクチバスを駆除する場合は、必ず管理者に許可をもらいましょう。許可の手続きについては、地元自治体に問い合わせ下さい。また、特別採捕許可が必要となる場合があるので、事前に内水面漁業関連等の都道府県機関にご相談下さい。

3. 日程の決定

ため池の水抜きを始めて完全に排水できるまで規模により数日から2週間程度かかります。このため、駆除作業日を決め、事前に排水を始めましょう。排水までにかかる日数は池により異なるため、排水開始時期を管理者と打ち合わせて下さい(13ページ参照)。



▲ 池干し当日のため池
完全排水直前の状態。

4. 駆除道具の準備

駆除時に必要な道具類は地曳網・タモ網・三角網・投網などです。このほか、カゴやバケツ大型のケース等も準備して下さい。

このほか水や簡易トイレがあるといいでしょう。



5. 排水開始

排水の際には、オオクチバスの流下を防ぐことが大切です。排水口の下流部に網を仕掛けて捕獲します。ただし、水量が多い場合には網が破損する恐れがありますので、あらかじめ状況確認をしましょう。また、池の減水状況も確認しておきましょう。

ため池に、希少種など生息している場合は、事前に採集し、水槽や安全な場所に避難させておきましょう。



6. 在来魚や希少種の保護

水位が減少すると残っている在来魚や希少種も捕獲が可能になります。このため、一時保管出来る場所や水槽を準備しておきましょう。

このほか、二枚貝などの貝類も生息している場合があります。二枚貝は、時期にもよりますが、水がなくてもすぐには死亡しません。しかし、駆除が終了し水を貯め始めても水位の上昇が遅い場合は、一時的に泥底の部分に移動させましょう。



7. 完全排水

駆除作業日当日には完全に排水します。水がなくなると泥から足が抜けなくなりますのでご注意ください。

長年水抜きをしていないため池では、排水が困難になる場合があります。このような場合には、エンジンポンプなどを利用し排水しましょう。



8. 完全排水ができない場合

完全排水ができない場合には、地曳網を使い駆除しましょう。

また、翌年以降2～3回水抜きを行うことで、完全駆除できる場合もあります。



9. オオクチバスの全数捕獲

オオクチバスの捕獲のために地曳網や投網を使用する場合は、水深がないと作業が困難になります。このため、当日最初に地曳網で駆除し、水位の低下とともにタモ網などで捕獲しましょう。取り残しがないようなるべく時間をかけて駆除しましょう。



10. 湛水

池干し後、1週間程度で水を溜始めましょう。